

年間行事予定

- ◎1月13日(水) 成道会(じょうどうえ) 釈尊がお悟りを開いた事に因んだ行事 ※今年塔婆供養のみ開催
- ◎1月15日(金) 懺法会(せんぼうえ) 観音さまに懺悔と安泰を祈願 ※時短開催、小豆粥接待は中止
- ◎1月17日 初観音講
- ◎2月11日(祝日) 新福寺大般若 ※祈願申込書を配布、※バス参拝は中止
- ◎2月15日 涅槃会(ねはんえ) 釈迦さまのご命日、大涅槃図展覧
- ◎3月14日(日) 春季巡教(しゅんきじゅんきょう) 法話と塔婆供養は中止、屋外行事のみ
- ◎春分の日 接待どなたでも参加できます 三川各地、お寺は観音堂にて開催

☆お菓子のお接待

- ◎春 托鉢 三川鉢 (開催未定)
- ◎5月5日(祝日) 降誕会(こうたんえ) 釈尊の誕生日 (☆山門にて甘茶接待) 未定
- ◎6月下旬 新亡供養(しんもうくよう) 本山妙心寺より直接ご案内がございませぬ ※開催未定
- ◎8月1日〜14日 お盆のお参り
- ◎8月16日(日) 山門大施餓鬼(さんもんだいせがき) (☆書院にて抹茶菓子接待) 未定
- ◎12月31日23時半〜1時 除夜の鐘
- ◎毎月17日 観音講
- ◎御講当番 上道・仲村

※年間行事は未定、中止のものが含まれますので、ご注意ください。

◎第2第4水曜日ご詠歌練習日(休会) ◎婚活吉縁会は新システムに改修中 早ければ3月活动再開予定

祝 米寿

数えて米寿(昭和9年生まれ、満87歳)をお迎えの方はお寺までお知らせください。大本山妙心寺の管長殿下よりご祝辞と記念品がございませぬ。

あとがき

▼ウンザリする話はあまり書くまいと思いつつ、最後に一度だけコロナ話を。▼老若健病問わず適切に注意すれば良いようですが、そう簡単にはいきませぬ。正論同士がぶつかり合い、世情過熱に躍らされ、誰もがストレスを溜めこむ一年でした。▼悩みの尽きない日々。どうすれば良いでしょうか。緩和策として坐禅を強くお勧めします。簡単に、毎日3分でも坐り、呼吸を調べてみて下さい。3分坐れば3分のやすらぎです。▼心の調った世界には拡大も終息もなく、どんな現実も受容する力、人や社会を許せる力が自分に元々備わっていた事に気がきます。悩めるあなたに、正しい坐禅をお勧めします。▼心が自ずと調ったら坐より立つて、その境涯を日常に向け、自分だけが果たすことのできない役目を社会に活かして参りましょう。

長勝寺報

第12号 令和3(2021)年 新春



発行所

〒八七〇一〇一四二 大分市三川下二丁目六番二十三号 Tel〇九七五八〇四二八七 臨濟宗妙心寺派 長勝寺 E-mail tyosyoji.oit@gmail.com

巻頭言

前年の長勝寺報でお知らせさせて頂きました育休ですが、3月末に無事女の子が産まれました。皆様より沢山のご祝意を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

昨年からは不妊、流産死産の助成制度がにわかにはニュースになりました。4年前まで重症な患者だっただけに、ようやくここまで来たかと感慨深いと思います。周りに苦しんでおられる方がおられましたら、話題になっている今こそ、敢えて黙って見守ってほしいのです。私共も昔よく「大丈夫です、そのうち授かりますよ」「仕方ないね、諦めましょう」「まだ?」と様々なお言葉を頂きました。心強く感じた半面、感情を押し殺し、全力の作り笑いでその場をしのいだものでした。頭では解っていても解決に時間が掛かりますし、何より、大切な命の消えた悲しみは本人にしか解決できません。本人たちの口から「もう大丈夫です」「仕方ありません」という言葉が出てくるまでは、静かに佇む仏像の如く、「うんうん」「そうか、そうか」と見守ってほしいのです。

あるお宅の法事にお伺いした時、実に聡明な小学生の姉妹に出会いました。人は必ず死ななければならぬというお話になった時「ああそうか」と一言。淡々と納得した様子に感銘を受けました。大人に同じ話をして、死の話など聞きたくないとばかりに、ほとんどいい顔をされないのです。生だけに価値があり死に意義を見なければ、その方の人生は終わりに近づくと価値を失うことになり、歳を取るとは嫌なことになり果てます。死んだらそれで終わりという発想は厭世観の極みです。

死は自分には出来ない最後の役目です。終焉が近づくとつれづれ穏やかさを増し、丁寧な感謝を述べ、周りに感動を起し、その臨終に関わった人々の人生観を、今なお高めようとする方のあったことを知ります。死があつてこそ生が生き、死んだら終わりではないのです。

自身の死の意義を他にも向けたものが供養です。生死の達観あつて初めて亡き人に「届く」供養になり、届いた供養がそのまま自他共に日々の充実へと繋がってまいります。

庫裡、160年振りの大改修

長勝寺の庫裡は文久元（1861）年に造られた建物です。小規模の修繕を重ねながら今に到りますが、昨年の豪雨で、瓦を支える土が客間の床の間周辺に落ちる事態となりました。調査の結果、緊急性が高く、かなり深刻な状態であることがわかりました。折りしも山門の改築が計画されていた途上でしたが、山門と庫裡を一体改修することになりました。主な目的は瓦を葺き替えて雨漏りを無くす事ですが、それ以外に、傷んだ箇所は補修や天井の掃除・吊り直し等も行いました。塵も積もれば山となると言いますが、天井裏の塵だけでも160年分ともなれば相当な量でした。間もなく新たな姿となる庫裡を毎日有難く眺めております。このような大事業が出来ますのも、ひとえに檀信徒皆様のご尽力、ご法愛の賜物と存じます。完成の暁には、衆生済度の法具として活用し、ひいてはそれが皆様の功德として、益々のご利益が振り向けられますことを伏して仏天に願います。



山門解体

山門に関してはこれまでその詳細が分らずにいました。今回の解体により、創建年は約270年前の寛延（1749）2年、東漸玄猷和尚の時代の建物ということが判明しました。亀王の地から現在地に移転した時期で、旧観音堂が建って12年後に当たります。ケヤキ、セリダン、マツなどの材を多用し、堅牢な造りではありましたが、経年の為、瓦が崩落寸前だったり、雨漏りから見えぬ部分にかなりの腐朽がありました。



解体の途中、北西の棟木から当時の落書きと思しき墨書きを発見しました。片手にお供えの餅を捧げ、「河邑（村）姓百代」（河村姓が百代のちも続きますように）とあります。願い通り末裔の方々が今なお栄えておられることを祈りました。

新山門は、同じ場所に形を「切妻」に変えてお目見えします。なるべく段差を無くし、戸は設けません。左右には透かし付きの壁が付きまします。ホームページにて様子を公開しますのでそちらもご覧ください。

年越そば接待40数年の歴史に区切り

新しい梵鐘が出来て以来、毎年約400人もの方に好評いただいております。年越そばのお接待ですが、ここでひとまず区切りをしたいと思います。今まで何度も改善を重ねてきましたが、時代と共にそのスタイル、安全性が通用しなくなってきたように思います。しばらくお休みを頂き、新たな形で再開できるように工夫を重ねます。

金神除けについて

金神除けは、厄除け、出産、引っ越し、新築、改築等、大小様々な出来事が無事に円成することを願う祈りです。金神は恐ろしい神で、ひとたび金神に睨まれると大変な災いが起こるので、その金神を除けるためのお札（金神除け）を用意するのです。古くは、正式に金神を祀り、江戸幕府から、その由緒を認められて、祈禱許可の「官許」を得た社寺のみが祈禱を行えました。この地方では豊後大野市の新福寺が、唯一の官許祈禱所です。

長勝寺は従来、金神除けのすべを持ちませんので、頂いた祈禱、祈願のご依頼は、すべて新福寺にお願ひしています。ご希望の方は長勝寺にご連絡いただくか、直接新福寺（TEL0974372093）にお申し込みください。

シリーズ 長勝寺の至宝

本尊地藏菩薩坐像 掌善・掌悪童子立像

禅宗の本尊はお釈迦様のみと説明する向きもあるようですが、本来はお釈迦様にこだわらず、様々な因縁によつて観音様やお地藏様も本尊としておまつりします。さて、長勝寺の本尊はお地藏様です。言い伝えによると昔、長勝寺は妙心寺派ではなく、鎌倉の建長寺派だったそうです。建長寺の本尊はお地藏様なので、それに因んでお地藏さまとしたのでしょうか。経によれば、お地藏様はその姿を様々に変え、困っている人の身代わりになんて福をもたらすとあります。私たちもお地藏様のような人格を目指したいですね。



向かって右が、あるがままの世界（真如）を調える掌善童子、左が苦の根源（無明）を伏せ抑える掌悪童子